



ふじもと のりまさ
藤本 憲正 さん

忍阪区をこよなく愛し、地域活動にも精力的に取り組む藤本憲正さんは、忍阪区で区長を務め、道路・寺社・公園の清掃、石位寺（薬師三尊石仏）の拝観対応や地域で行われる忍坂街道まつり・忍阪秋祭りの開催などを率先して行っています。

今年1月、藤本さんが地域の人たちと共に花壇を作り、花を植え育て上げる「はないっばい推進事業」*への取り組みが認められ、景観づくり部門で「令和5年度きれいな奈良県づくり功労賞」を受賞されました。

藤本さんは、どの活動も地域の人と共に自ら進んで取り組んでおり、その姿は地域の人にも良い影響を与えています。「地域の雰囲気はより良くなり、地域の人同士の繋がりもますます広がった」と藤本さんは喜びを語ります。

こうした地域の活動を通して「皆の地域活動に対する意識が高まり、自ら進んで取り組む人が増えたことが嬉しい」と藤本さんは言います。

今回の受賞を契機に、地域の人たちの郷土愛が深まり、さらなる活性化を目指す藤本さんの活動はこれからも続きます。

*奈良県緑化推進協会が地域環境をよくする目的で花の植栽をする事業を支援するもの

発掘調査現場から (305)

中心伽藍北側に広がる建物の痕跡 ～安倍寺跡第23次調査～

安倍寺跡は、安倍木材団地に存在した寺院で、7世紀中頃に建立されたと伝わっています。現在は安倍史跡公園として、安倍寺の塔や金堂とこれらを囲んだ回廊の基壇*が復元されています。

発掘調査は、安倍史跡公園の北側で行いました。正確な位置が判明していない講堂や、回廊北側の利用状況を確認することを目的としていました。

調査では複数の柱穴や、建物の柱を支えるための礎石を落とし込んだ南北に一直線の穴が見つかりました。礎石の落とし込まれた穴は5基見つかり、そのうちの1つには3つの礎石が入れられており、合計7つの礎石が発見されました。大きさは70～80cmほどで、柱を載せるための平らな面を持っています。礎石はいずれも本来据え置かれ

ていた位置からは動いています。しかし、一直線に等間隔で並ぶことから、ある程度元の位置関係を反映していると考えられます。1列分の礎石しか見つかっていないため、詳しい建物の規模や性格については不明な点が多いですが、今回の調査により安倍寺の北側には、礎石を使用した建物をはじめ複数の建物が建ち並んでいたことがわかりました。



出土した礎石▶

*基壇…建物を建てるため、土を盛って一段高くした段